

バスが 動いているときは 動かないで下さい!!!

乗車中は手すりやつり革におつかまりください
バスの扉が開くまで移動はお控えください



バス車内事故防止にご協力ください
7月は「バス車内事故防止月間」です

乗合バス車内の転倒等により、多くの方が負傷されています。

- 車内事故については、年々減少傾向にありましたが、ここ数年は横ばいで推移するなど依然として多くの方が負傷されています。
- 負傷された方の年齢構成を見ると、高齢者（65歳以上）の方以外にも17名の方が負傷されており、「車内事故＝高齢者の事故」ではないことがわかります。
- 車内事故発生時のタイプを見ると、立席時及び車内移動中の事故が負傷者全体の半数以上を占めています。また、着座時の事故も23件発生しているなど、いかなる場合においても事故が発生していることがわかります。

車内事故での負傷者数 (歴年推移・中部運輸局管内)

年	H26	H27	H28	H29	H30	R1
重傷(人)	9	17	6	10	8	6
軽傷(人)	92	76	51	51	67	61

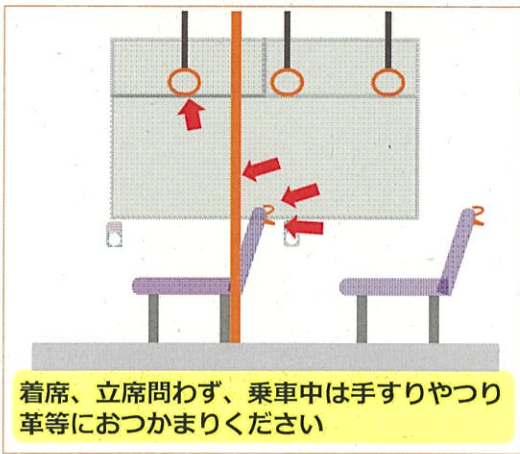
車内事故負傷者の年齢構成 (令和元(平成31)年・中部運輸局管内)

年齢(歳)	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～	不明
負傷者数(人)	17	1	8	7	9	2	23
(65歳以上計)：27							

車内事故の発生タイプ (令和元(平成31)年・中部運輸局管内)

タイプ	立席	着座→立席 立席→着座	着座	乗・降車
発生件数(件)	23	14	23	7

バス走行中は手すり等にしっかりおつかまりください。 立席時のスマホ等の操作は大変危険です！



□ バス運転者が気をつけて運転していても、やむを得ず急ブレーキを掛ける場合もありますので、バスの急な挙動に対処できるように普段から心がける必要があります。

□ バスに乗車したら、立席、着座問わず手すりやつり革等に必ずつかまり、走行中の移動はお控えください。また、お降りの際もバスが完全に停車するまで（バスの扉が開くまで）移動はお控えください。

□ 特に走行中立席時のスマートフォン等の操作は手が塞がる要因となり、手すり等にしっかりとつかまることができず大変危険です。

□ バスに乗車する際には、転倒を避けるための動きやすい服装、手がふさがらないようなかばん（ショルダーバッグ等）を使用するようにしましょう。



お年寄りやお体の不自由な方、妊婦の方、 小さなお子様連れの方に席をお譲りください。

□ 車内での転倒等の事故は、立席時や車内移動時に多く発生しています。

□ お年寄り、お体の不自由な方、妊婦の方および小さなお子様連れの方は、バス車内においてどうしても不安定な姿勢となりがちです。

□ 上記の方を見かけられましたら、お声がけ、簡単なお手伝いや席をお譲りいただくなど、車内事故防止に向けた取組みにご協力をお願いいたします。



発行：国土交通省中部運輸局 保安・環境課
〒460-8528
名古屋市中区三の丸2-2-1
名古屋合同庁舎第一号館
☎052-952-8044